



かかばやく子ども

～自立と共生の礎を培い、今と未来を豊かで創造的に生きる子どもを育てる学校～

梅雨の季節である6月に入りました。朝から雨が降っていても、「長休み」や「昼休み」の時間に雨がやむと、少しの時間でも外で元気に遊ぶ子どもたちの姿に、たくましさを感じています。

5年生の子どもたちが、5月29日に、プールの掃除をしました。冷たい水にはしゃぎながらも、プールの隅々まできれいにできました。いよいよ水泳学習が、はじまります。そこで、「水(水泳)の特性と魅力」について考えてみました。



《水の特性》

- 空気に比べて、水の密度ははるかに大きいことから、水中では大きな抵抗を受ける。(動きにくい)
- 熱の伝導率が高いことから、皮膚感覚が敏感になり、動きが少ない初心者は冷感が大い。(震える)
- 浮力の働きにより、重心が不安定になる。(不安定な動き)
- 空気中では無意識に呼吸しているが、意図的に呼吸しなければならない。うまくできない時は、生命の危険に直結する。(息苦しい)・(水が怖い)

《水泳の魅力》

- 初心者には、『水の怖さ』として作用するが、克服した時『水(水泳)の楽しさ』にかわる。
- 克服することで、達成感を味わい、競争することへの楽しさとなる。【克服型スポーツ】
- 克服型スポーツにおいては、「めあてをもって挑戦していく子ども」の育成につながる。同時に、体育科だけでなく、他の教科等の学び方にプラスとなる。
- 水泳を通して、『生涯スポーツ社会』(誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる社会)の実現につながる。

現行の「小学校学習指導要領【体育科】」における内容

<p>【低学年】</p> <p>水遊び</p>	<p>(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようになる。</p> <p>ア、水に慣れる遊びでは、水につかったり移動したりすること。</p> <p>イ、浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすること。</p> <p>(2) 運動に進んで取り組み、仲よく運動したり、水遊びの心得を守って安全に気をつけたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。</p>
<p>【中学年】</p> <p>浮く・泳ぐ運動</p>	<p>(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようになる。</p> <p>ア、浮く運動では、いろいろな浮き方やけ伸びをすること。</p> <p>イ、泳ぐ運動では、補助具を使ってのキックやストローク、呼吸しながらの初歩的な泳ぎをすること。</p> <p>(2) 運動に進んで取り組み、仲よく運動したり、浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全に気をつけたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自己の能力に適した課題を持ち、動きを身につけるための活動を工夫できるようにする。</p>

<p>【高学年】</p>	<p>(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身につけることができるようにする。 ア、クロールでは、続けて長く泳ぐこと。 イ、平泳ぎでは、続けて長く泳ぐこと。</p>
<p>水泳</p>	<p>(2) 運動に進んで取り組み、助け合って水泳をしたり、水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができる。 (3) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。</p>

陸上で生活している人間には、水の中に入ることは身体にとって不快で、「水中で目をあけるのがこわい。」とか「耳に水が入るのがいやだ。」「息つぎのとき、水を飲んでしまいそうだ。」など、恐怖感を取り除き、克服しなければならないことはたくさんあります。1・2年生は小プール、3～6年生は大プールの中で、「水遊び」や「伏し浮き」から「クロール・平泳ぎ」まで、各学年の目標をたてながら、「水に親しむ子」・「浮いたりもぐったりすることを楽しむ子」さらには、「自分の目標をもって泳ぐ子」になるよう指導していきます。梅雨の季節のため、水温や天候によって限られた時間しか水泳指導はできません。体調の管理をしながら、一回でも多くの参加ができますようお願いいたします。またご家庭で「今日水泳、どうだった？」など、夕飯の話題にさせていただけると幸いです。

5年生「田植え」体験から学ぶこと

老上西農業各校のみなさんに、田植えの体験をさせていただきました。たんぼの地主さんと米づくりをサポートしていただく老上西農業各校のご支援があるから、実現できるものであるとたいへん感謝しています。社会科で学習している日本の農業と関連させながら、体験を通して「米づくり」について、学んでほしいと思っています。

子どもの実態を、想像すると・・・

- ◎主食である米をだれもが食べていますが、育てた経験がある子どもは少ないことでしょう。
- ◎たんぼで育つ稲穂を見たことがあると思いますが、じっくりと観察して、例えば「苗は増える【分結する】こと」「稲穂に花が咲くこと」などを知っている子どもは少ないことでしょう。
- ◎農作業の機械化は進んでいますが、「しろかき」された「ぬかるんだ」たんぼの土の中に、素足で立った経験は少ないことでしょう。
- ◎稲作は、食べる「白米」だけに目を向けやすいのですが、「わら」「もみがら」「ぬか」など、すべてが活用できることを知っているでしょうか。
- ◎精米して食べている「白米」の色は知っていますが、精米する前の「玄米」の色を知らないかもしれません。

体験を通して学んだこと（今後の見通し）



- ★ぬかるんだ土の感触に歓声をあげながらも、身動きをとることの難しさを実感することができた。
- ★社会科の学習「日本の農業」の中で、体験したことと関連した学習がさらに深まりそうである。
- ★2学期には収穫した喜びをわかちあいなど、新たな学習活動をつくりだすことになる。

「米」という漢字は「八十八」と書くように、収穫まで八十八もの手間をかけるべき大切な農作物だといわれてきました。機械化が進む今日、昔ながらの方法で田植えができたことは、子どもたちにとっては貴重な体験となりました。秋の稲刈りでも、たくさんのことを学ぶはずですよ。